

## 工場紹介・

## 北九州工場

北九州工場は昭和34年1月に当社の創業の地で最初の独自工場としてスタートした。当初はクレーンもなく白銑肉盛を主体とした小型部品の製作を行っていた。昭和36年新工場が完成し堅式溶接装置（CPC装置の原形）を設置した後ラッパーロール、ホットランロール、ピンチロール、テーブルロールなどの各種ロール、ローラーの製作、補修を開始した。昭和49年11月山陽工場操業開始と共にCPC装置によるロール、ローラーの生産を移管した後、昭和57年3月には溶射、昭和58年10月には溶接材料製造、昭和59年～62年にかけて機械加工を開始した。現在は、溶接・溶射、機械加工、溶材製造の3部門から構成されている。

溶接・溶射部門では、本年度より肉盛ハイスを山陽工場へ移管し溶射の生産比率を高めるべく全工場一丸となって努力しているところである。特に平成3年度に導入したSSPSによる高品質なセラミック溶射被膜を武器に製紙業界へ積極的にアプローチしている。

機械加工部門は、当初新日鐵八幡製鐵所のロール、刃物研磨部門を移管することによりスタートした。当初生産高の約100%であった新日鐵よりの受注も現在は50%迄下がっており社内品の加工の比率が高くなってきている。又最近では、セラミック、サーメットの溶射被膜を研磨仕上げする技術を確認するため種々のテストを行っているところである。

溶材製造部門は自社用溶材の開発生産を目的にスタートしたが、平成2年にマイクロワイヤーの生産を開始してからは、徐々に社外販売の比率が高くなり現在は逆転している。

又、付加価値の高い品種の比率が高くなってきており、コスト削減の努力の成果も加わり着実に利益を計上しつつある。将来はフジコーの資材生産部門の大きな柱として位置づけられるであろう。

北九州工場の歴史は、フジコーの歴史であると言っても過言ではなく、35年の間に種々の技術や新製品を生み出してきている。今後も常に新技術にチャレンジし、フジコーの技術の発展に寄与するであろう。

## 北九州工場概要

敷 地：650坪

従 業 員：46名

生 産 高：650,000千円/年

生産設備	サブマージ溶接機	4台
	半自動溶接機	5台
	粉体プラズマ溶接機	3台
	パウダーフレーム溶射機	4台
	ワイヤーフレーム溶射機	3台
	高速プラズマ溶射機	1台
	水プラズマ溶射機	1台
	円筒研削機	4台(φ50～800)
	平面研削機	2台(500×3000)
	施盤	5台
	チューブラワイヤー製造設備	1式
	ボンドフラックス製造設備	1式
	マイクロワイヤー製造設備	1式

